

2 家畜衛生対策事業

(1) 監視・危機管理体制整備対策事業

ア 家畜伝染病防疫対応強化

飼養衛生管理の向上を図るため、会議・研修会を開催し、また、農場を巡回し衛生管理指導を実施した。

実施内容	開催回数	出席人数	備 考
地域推進会議	3	162	市町、農協、獣医師、家畜人工授精師
衛生管理指導	10	-	さくら市、矢板市の肉用牛飼養農家

イ 家畜衛生関連情報収集体制整備

畜産農家からの情報や病性鑑定成績等を基に、家畜衛生に関する対策及び疾病の発生状況等の情報を収集・分析し報告及び農家への情報提供をした。

実施内容	実施件数	備 考
情報の収集	102 (件)	家畜衛生に関する対策及び疾病の発生状況等の情報の収集
家畜衛生情報提供	12 (回)	家畜衛生に関する対策及び疾病の発生状況等の報告

ウ 診断予防技術向上対策

近年問題となっている家畜の伝染性疾病の迅速診断法の開発を進めるために必要な調査、検査を実施した。

疾病名	畜種	実施戸数	検体数	内 容
ヨーネ病	牛	4	25	細菌の分離培養、リアルタイムPCR検査、疫学調査

エ まん延防止円滑化対策

オーエスキー病の清浄化を推進するため、養豚農家、市町担当者、農協等職員、開業獣医師等を対象に会議を開催した。

疾病名	回数	出席人数	内 容
オーエスキー病	1	38	栃木県豚オーエスキー病対策実施要領に基づく防疫措置

オ 動物由来感染症監視体制整備

豚レンサ球菌症の正確な診断と監視体制整備のため、豚レンサ球菌の保菌状況を調査した。

疾病名	戸数 (頭数)	検体数	成績
豚レンサ球菌症	2(2)	2	PCR 検査で菌種を確認

(2) 慢性疾病等生産性阻害疾病対策

生産性阻害が顕著な農場に対し、生産性を阻害する疾病群について、調査・検査を行い、発生動向を把握、得られた成績をもとに、対策を検討するとともに、疾病防疫マニュアル作成の基礎とする。

疾病名	畜種	調査戸数	調査頭羽数	実施内容
豚繁殖・呼吸障害症候群	豚	1	3,000	豚舎の洗浄・消毒の指導。洗浄後の豚舎における洗い残しの確認 ルミテスターによる数値化(空舎期間の設定、密飼いの防止を指導)
鶏コクシジウム病	鶏	1	1,200	死亡鶏の病性鑑定、発症鶏群の隔離、敷料交換と鶏舎の清掃・消毒の徹底。感染予防を主眼とした飼養管理と、緩慢な飼料変更方法を指導。

(3) 畜産物安全性確保対策

ア 生産衛生管理体制整備事業

畜産物の安全性の確保を図るため、生産現場にHACCP方式に基づく飼養管理方式を導入するために必要な検査、指導を実施した。

区分	戸数	危害因子	内容
養豚農家	4	抗菌性物質の残留	必須管理点の設定は、出荷豚選畜時とした。危害防止対策は、記録簿のチェックと確認。

イ 動物用医薬品危機管理対策

(ア) 動物用医薬品の品質検査・指導

流通段階にある不適正な動物用医薬品を排除し動物用医薬品の品質確保を図るため、動物用医薬品等販売業者への立入検査・指導、医薬品の収去・品質確保検査を実施した。

販売業者店舗数	立入検査・指導		品質確保検査
	対象店舗数	実施店舗数	
159	159	46	医薬品の収去：県央家保1品目（収去品目：メイロン液） " 検査場所：家畜衛生研究部 （県北家保収去1品目も実施） " 検査結果：2品目とも規格範囲内

(イ) 動物用医薬品使用実態調査

動物用医薬品の使用の規制に関する省令に基づく動物用医薬品の畜産物への残留防止を図るため、養豚農家1戸、養鶏農家2戸及び肉用牛飼養農家1戸の計4戸について動物用医薬品の使用状況等の実態調査を実施した。
各農家とも休薬期間を厳守し、問題はなかった。

(ウ) 薬剤耐性菌の発現状況調査

人と動物の健康に対するリスク分析の基礎資料とするために、薬剤耐性菌の発現状況について調査した。

対象菌種	対象家畜	対象農家数	検体数	菌分離陽性数	分離株数	結果	備考
カンピロバクター	肥育牛 肥育豚 採卵鶏 肉用鶏	7	7	7	12	NA、CPFX、SM、EM、TC、ABPC、及びGMに1～5株の耐性がみられた。また、5株が多剤耐性だった。	

NA：ナリジクス酸、CPFX：シプロフロキサシン、SM：ストレプトマイシン

EM：エリスロマイシン、TC：テトラサイクリン、ABPC：アンピシリン、GM：ゲンタマイシン